

路上・公園のゴミ撲滅



町民一人ひとりの意識を高める

問 よりきれいな阿久比町にするために、町としての新たな施策はあるか。

答 副町長 ゴミを捨てない社会道徳感を持ってゴミゼロ運動を実施している。きれいなまちにするためにも、ゴミゼロ運動などの町主催の事業だけでなく、地域が主体となったコミュニティ活動が活性化することで、地域への愛着が増え、モラルの向上に繋がり、住みよいきれいなまちに変わっていくものと考えている。

昨年12月に、4つの小学校と阿中の参画で「子どもサミット」が開催された。SDGs宣言として「よりきれいなゴミのない阿久比町を、身近なところから一人ひとりが協力して明るいまちを目指そう」が採択され、子どもサミットが閉会した。

家庭ゴミは減ってきているが、子ども達が気にかけているのは、毎日通っている通学路や公園のゴミである。

問 子どもサミットのSDGs宣言をどう生かしていくか。

答 副町長 現在のところ、児童生徒各小中学校から町に具体的提言はないが、町のSDGsの情報発信が着実に小中学校児童生徒にも伝わり、意識向上や実践力向上につながっていると感じている。ゴミ問題に限らず環境問題全般に渡り、町民一人ひとりに、SDGsの大切さを認識してもらうよう進めていきたい。



町制70周年 子どもサミット

増やそう阿久比町のホタル

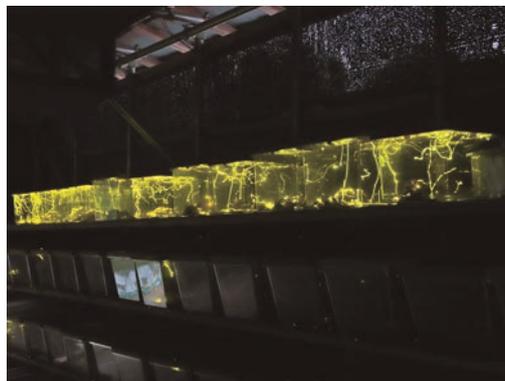
減少の原因判らず

町民憲章に「ホタル飛ばかう 豊かな自然を守ります」とある。それが近年原因不明で、数が激減している。今年6月には「全国ほたるのまち交流会」が阿久比町で開催されるが、今年のホタル鑑賞会自体が心配される状態である。1年前に発行された調査研究報告に、原因を説明することが必要であると記されている。

問 原因説明に何らかの進捗はあったか。

答 副町長 「日本ホタルの会」

に聞いたが、よく分からないとの回答で、現時点で原因説明や症状改善には至っていない。



養殖ホタルの様子



ひろせ みのる
廣瀬 実 議員
(志雄会)

問 白沢ホタルの会も高齢化になり、会の存続自体も長くない状況になってきています。会の存続をどう考えるか。

答 副町長 白沢ホタルの会に限らず、町の補助団体が高齢化により事業活動が困難なことは、大変残念で危機的な事だと思つ。町として特定の団体を全面的に支援することはできないが、可能な限り協力したい。

